

平成23年度教育委員会事務点検評価(平成22年度実施事務事業)評価表

1 事務事業の基本事項

		整理番号	9
事務事業の名称	博物館管理運営事業	担当部課	教育委員会 生涯学習部 博物館
		電話番号	04 - 2955 - 3804
実施期間	平成 3 年度 ~		
総合振興計画における位置づけ	5章 人を育み文化を創造するまちをめざして	実施計画(H22~24)事業名	個別計画等の名称
	1節 生涯学習の振興		
	1項 生涯学習の推進		
	2目 生涯学習の機会や場の拡充		
実施根拠	博物館法及び関係法令並びに狭山市立博物館条例及び狭山市立博物館管理規則		
事業区分	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 法定受託事務+自治事務		
事業開始の背景等	市政施行35周年記念事業の一つとして、「入間川と入間路-その自然と風土」をテーマに狭山市の原始から現代までを展示することにより、市民の郷土狭山への理解を深め、「新たなる郷土狭山」の創造を図るための社会教育施設として、平成3年度に開館した。		

2 事務事業の目的・内容

目的	社会教育施設として、郷土狭山の歴史・文化・自然等を広く紹介し、資料の展示や講座・体験学習を開催することにより、市民の学習活動を支援するとともに、郷土愛の育成、地域で活動できる人材の育成、地域コミュニティの活性化などに資することを目的とする。		
対象	一般		
活動内容	常設展示では、展示テーマ「入間川と入間路」を中心に、狭山の自然・地質・考古・歴史・民俗・産業・美術などを網羅的に展示し、教育普及では、市に関する講座や多様な体験学習を実施した。		
(下段)前年度の方向性に対する改善活動	(前年度方向性評価) 季節行事や「ものづくり」に視点を置いた体験学習、市の古文書の読解や歴史に関する講座などの充実を図ることができた。近隣の博物館では見られない講座等の開催は、多くの受講者から評価されている。 内容の見直し		
環境配慮	常設展示室の照明などは、入館者を確認してから点灯するなど、無駄な電力の経費削減に努めている。		
実施形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・負担 <input type="checkbox"/> その他()		

3 事務事業の実施状況と成果

区分	指標名	区分	単位	20年度	21年度	22年度	23年度	目標値の根拠・考え方
(実施状況指標)	体験学習や講座の件数(企画展開連を除く)	目標値	件	14	13	13	13	過去5年間の実績値をもとに設定
		実績値		13	12	12		
	達成率		92.9%	92.3%	92.3%			
	達成率							
(成果指標)	入館者数(企画展開催時を除く)	目標値	人	7,488	7,986	8,808	8,983	過去5年間の実績値をもとに設定
		実績値		9,501	11,680	7,781		
	達成率		126.9%	146.3%	88.3%			
	達成率							

4 事業費

		区分	単位	20年度	21年度	22年度	23年度	
経費	直接費	予算額	千円	53,839	52,794	52,119	50,940	
		決算額	千円	52,740	51,539	50,375		
		財源内訳	国県支出金	千円				
			その他特定財源	千円	1,836	3,199	1,309	
	一般財源	千円	50,904	48,340	49,066			
	人件費	従事職員数	人	3.91	3.91	3.91		
		人件費(従事職員数×平均給与)	千円	35,870	35,952	35,155		
		事業費計(直接費決算額+人件費)	千円	88,610	87,491	85,530		
効率性指標	指標名	年間入館者数-企画展開催時入館者数	人	9,501	11,680	7,781	※1単位当たりの経費	
	単位コスト	入館者1人当たりの経費	円	9,326	7,491	10,992		

5 事務事業の評価

◆第一次評価(担当課による評価)

項目	評価の視点	評価	評価理由
個別評価	必要性	4 前年度	社会教育施設である博物館として、常設展示のほか、資料の収集・研究、各種講座や体験学習等を通じて、市民の郷土愛を育むとともに、将来の狭山を担う子ども達に郷土の歴史や自然、「ものづくり」に興味と関心を持たせることにより、地域で活動できる人材を育てていく。また、市内の企業や学校、市民ボランティアなどと連携した事業を展開することにより、地域コミュニティを活性化していく。
	有効性	3 前年度	常設展示、古文書読解講座、歴史講座等により郷土狭山の歴史文化を学ぶ機会を多くの市民等に提供し、また、体験学習を通して、伝統行事等の風習や「ものづくり」の楽しさ・すばらしさを子ども達に伝えることができた。
	効率性	4 前年度	入館料、受講料や参加費など、適正な受益者負担により実施している。
< 5段階評価 > 5:極めて高い 4:高い 3:普通 2:低い 1:かなり低い			
今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了		
	資料の収集及び展示並びに講座・体験学習を継続して実施し、市民の学習活動を応援していくとともに、施設の管理運営の効率化を図っていく。また、開館以来20年を経過しているため、常設展示室の改修について、調査研究を進める。		

6 その他(学識経験者の意見等)

開館以来20年となり、常設展示室等の改修が必要となっている。今後博物館に対する要望はかなりの大きなものが予想され、他の博物館と連携を取りつつも、特色ある博物館活動を行っていく必要がある。また、ボランティアアドバイザーの導入の検討も行われなければならないと思われる。地域の活性化は、現に成人である人たちの手にゆだねるだけでなく、将来の大人(子どもたち)の力に期待する視点が重要となる。学校との連携による郷土の自然や歴史の学習、狭山市の現状に関する学習などの面で、学校教育との連携・協力が必要と考えている。